

区再開発準備組合の設立を契機に、早急な中心市街地活性化基本計画の認定に向けた取り組みが必要であると思うがどうか。

また、基本計画区域は、補助金や税の優遇措置などにより、再開発が誘発される効果が出てくるが、どのような区域を指定するのか伺いたい。

答 中心市街地活性化基本計画を策定し、国の認定を受けることにより、都市機能の増進や経済活力の向上に資する事業に対し国の支援が重点的に活用できるようにすることから、本市でも認定に向けた検討を進めている。

同基本計画の認定を受けることで、補助金や税の優遇措置など、中心市街地における都市機能の増進や経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進することができるようになるため、新大工エリアはもとより、浜町など他のエリアのまちづくりにも大きく寄与することが期待されるので、早期に同基本計画の認定が受けられるよう努力していきたい。

買い物弱者対策

問 買い物に行くことが困難な高齢者等に対し、民間で宅配サービスを行っているところもある。本市では、斜面市街地において「車みち整備事業」を

進めているが、車が通れるように整備できないまでも、バイクが通れるように整備する「バイクみち整備」を行うべきだと考えるが、見解を伺いたい。

答 本市の斜面市街地は、車が入れない住宅地が多く、防災や通院、介護、買い物などの日常生活に不便を来しているため、地域住民の高齢化が進む中、買い物弱者対策として、宅配サービスなどのソフト対策や、生活道路整備などのハード対策が求められている。本市は、平成25年度から「車みち整備事業」を進めているが、「バイクみち整備」も、買い物弱者対策につながるものと考え、整備に当たっては、歩行者の安全性や路上駐輪などの問題もあるため、地域住民の理解、協力が得られるところについては、地域と一体となり、バイクが通れるような道路の整備を行っていききたい。



車みち整備前

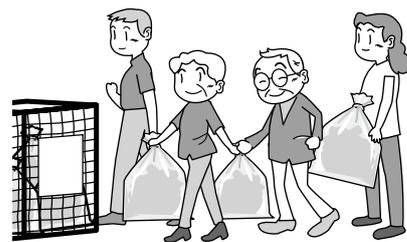


車みち整備後
狭い道を拡幅

公明党

空き家の利活用

問 斜面市街地における老朽危険空き家の増加を抑制する手立てとして、横須賀市では空き家をリフォームして大学生に貸し出すモデル事業に着手して注目を集めている。このような事業実施について市の見解を伺いたい。



答 横須賀市では、地域住民の生活支援と大学生の居住支援を目的として、補助金を活用してリフォームした空き家に居住する学生に家賃補助を行っており、その学生が地域の高齢者の買い物やゴミ出し等の支援を行う事業を実施している。本事業は、大学や駅等に近い比較的安全性の高い斜面地の空き家を対象としており、本市における斜面地の環境とは条件が異なるが、福祉面や地域活性化での効果が大きく、空き家対策にもつながると考える。

今後とも、空き家解消に向けた取り組みについて、先進地の事例にも注視

し、関係部局とも連携を図りながら調査・研究していきたい。

重要な幹線道路の整備促進

問 本市の南部地区の主要幹線道路は、国道499号のみ、また、北部地区の佐世保市につながる主要幹線道路は、国道206号のみである。これらの災害時の代替輸送路となる長崎外環状線や長崎南北幹線道路は、いまだに整備の目途が立っていない。整備に向けた進捗状況及び取り組み姿勢を伺いたい。

答 長崎外環状線の新戸町から柳田町間は、県において整備の必要性が十分認識されているものの、多額の費用を要するため早期事業化に向けたルートの見直しや事業費の縮減等を検討している。長崎南北幹線道路の松山町から時津町間は、県においてルートの検討や費用対効果等の精査が行われている。

本市としては、長崎外環状線及び長崎南北幹線道路は、渋滞緩和や防災対策のみならず、産業の活性化や地域間の連携強化等のための重要な路線と考えており、早期事業化及び早期完成に向けて、地域や議会とも一体となりながら、引き続き働きかけを行っていき